

### eスポーツ部始めました

～「努力の娯楽化」～ 2023・10・4 重枝 一郎

以前の勤務校（福翔高校）でeスポーツ部をつくった。第1回eスポーツ高校選手権に何とか間に合うようにと半ば強引に進めた（第1回の出場校になろうとした）。職員会では「性差がない競技である。障がい者も同じ土俵で競技できる。外国に行かなくても交流できグローバルである。団体戦のみの参加にする。コミュニケーション力の向上が第一義である」などと説明したのを思い出す。機器の費用の問題だけが残った。この取り組みに福岡市が協力してくれて補助金をもらえることになった（たぶん九州の公立高校で初）。チーム戦に参加可能な5台の機器をそろえることができた。生徒はコンピュータ部の部員中心に集まった。生徒たちの中にはほとんどしゃべらないおとなしい生徒が多くいた。顧問の要望もあり、活動時間の半分は資格取得の勉強、半部分がeスポーツの活動でスタートした。eスポーツ活動の様子は、生徒たちの今まで見たことのない顔で、聞いたこともない声で仲間とコミュニケーションをとりながら競技している姿があった。その姿は、私たち教師を驚かせた。部顧問はコンピュータ部の顧問に兼部してもらったがeスポーツの経験はない。大会に向けてコーチを探した。コーチは通信制に通う高校2年生の人をお願いした。大会までの短い期間であったがとても熱心に指導してくれた。私はその指導法に感心したことを思い出す。正直私たち教師が見習うべきコーチングスキルで引き付ける話し方ができていた。そして大会当日、といってもいつものコンピュータ部の活動場所である。オンラインなので全国大会だが旅費がかからない。コーチの指導のおかげで1回戦突破、2回戦は優勝校に惜敗だった。日頃は目立たない生徒たちであったが生き生きしてかっこよかった。

その後、校内で「eスポーツクラスマッチ」をした。昼休みを利用しエントリーチームの予選を行った。決勝は全校集会の際に講堂で行った。対戦画面を大スクリーンに映した。サッカーの競技だったのでMCをサッカー部の顧問が引き受けて盛り上げてくれた。とても盛り上がった。

翌年、私は中学校（日佐中）に異動した。ゲームばかりしているという噂の不登校のA君と校長室で話す機会を担任につくってもらった。A君はどうやらeスポーツに興味をもっているということを目にしたからである。私はA君に「ゲームをなめているのか！真剣にやれ！」と言い放った。「真剣にやるというのは時間の使い方などいろいろ考えてやることだ」。A君はゲームすることを規制されたりするのかと思っただけ、安心していろいろ話をしてくれた。私はA君を福翔高校eスポーツ部体験に連れて行った。「また行きたいなら学校に来い」と冗談で言っていたら学校に来だした（笑）。

最近耳にしたのだが、福翔eスポーツ部からプロになった生徒がいると聞いた。おそらくすごく「努力」したのではないかなと思う。

この「努力」についてだが、それが「努力」かどうかは当事者の主観的認知である。もしかしたら本人がそれを「努力」と思っていないかもしれない。客観的に見れば大変な「努力」を続けているかもしれない。しかし、当の本人はそれが理屈抜きに「好き」なので主観的には「努力」だと思っていないこともある。これはある意味最強の状態と言える。その「努力」が「好き」ということだと思う。その「努力」が好きならば、おそらく時間を忘れるほどのめり込める。時間だけでなく我を忘れる。人に認められたいという欲も後退する。そのものに没入する。するとますます上達する。さらに成果が出る。それが世の中と折り合いがつかずと才能として認められる。

やはり「好き」という感情は、何かが育つ可能性を秘めている。ある人はこれを「努力の娯楽化」と言った。私たちの仕事も、努力が娯楽化することで必ず人より得意なことになっていく。